

化學摘要三篇草稿

宍田川準一譯

明治六年二月四日

洋学文庫
文庫8
C 97
2





藏書

○非金属元素第十九章

此篇、於ハ上表ニ記載セル順序、從ヒ緊要ニシテ且ワ

普通元素ノ各異性ヲ論ス。ベシ

酸素第十九章

酸素ハ無色無味無臭ニシテ且ワ見ルヘカラガル氣体ナリ。此物ハ其
容四倍ノ窒素ト混和シ大氣中、旣離レ現スルアリ。又凡テハ
元素+（非素ノ例、アラス）抱合レ酸化物ヲ作レ現ス。モ如ク
他ノ元素ト抱合スルニ當方、常ニ熟ニ生レ且ワ屢々光ク発スル
キ。此ノ光現ヲ名ケテ体ノ燃焼ト云フ。○酸素ハ各種ノ岩
石、沙塵、土泥及ヒ礦物中、存在セル者ニシテ我地球上ノ十分六
ヲ成ル者トス。而シテ其作用タルヤ動物ノ生活、瞬時モ欠

非象

クヘカラサル繫要物トキツシ即ナ諸動物皆ナ之シテ呼吸シテ
体血ヲ酸化清淨ナシシメ其ノ体熱有保貯セシム者是
酸素瓦斯ヲ得ルハ此物ヲ含有セル抱合物ヲ熱スル、在リ。即ナ赤
色酸化水銀ノ管中、熱スルカ或ハ塩素酸剥篤瓦斯其ノ瓶中、
熱スル可ナリ。然ル后ナ瓦斯其ノ分離セシヤ否ラ、試ニハ赤焼シタル
木片ヲ其瓦斯ニ触レシム、一レ但レ其木片發炎スル、至シハ瓦斯
ノ分離セシ明ナリ)

第三十試、記載セシヨリノ多量、酸素瓦斯ノ製スルハ粉末ル
塩素酸剥篤瓦斯ノ半弓弓里色酸化漏缶ト混和其和剤ノ
里色ト成ル為至ル然ル后ナ其和剤ヲ壇中に入レ之ニ長キ屈
折管ヲ備ヘタルキモリ柱ヲ施し其壇ヲレトヒ墨ノ環上、

安置し徐熱スレ此時、當リ掲発スル所ノ瓦斯ハ第二主因
ニ示セス如ク壇ヲ水桶中、倒置レテ集ナヘシ
酸素瓦斯ノ作用ニテ得リ次ノ如シ

〔三〕蠟燭一心ヲ赤焼シ之シテ糸金ノ尖端、附ケ酸素ノ
壇中、衝入シレハ発火シテ燃エ然ル后ナ其壇中、
石灰水ヲ注加シハ炭酸ラ形為ス

〔三〕赤焼木炭ノヤドヲ壇中に入レ酸素、触レシムハ燃ヘ
テ光輝アル火ヲ發レ前ナ同シク炭酸ラ形為ス
硫磺ノ小塊ヲ熔カシヒ上ニテ燃マレ后ナ之シテ瓦斯
中、入ルシハ光輝アル青色火ヲ掲ケテ燃ニ

〔四〕乾キル燐最火塊ヲ七上に置キ、着火シテ后ナ瓦斯中

道すハ燃ヘテ眩迷スヘキ光輝ヲ發ス
前記載セル所ノ硫黃ヲ燃スニ當リ生レタル無色氣体及々燐ヲ
燃ヤスニ當リ生レタル白色烟ハ共、酸性物ナ。故ニ其壇中
ニ些ナノ青色リトマス液ヲ注入シハ其液赤色ニ變スルヲ見ル
ベシ

水素第四十六章

水素ハ酸素ト同レノ無味無臭ニシテ且ワ見ル能ハカル無色ノ氣体ナ。
此物ハ大氣中ニ旅離シ現セス^但酸素ト抱合シ水ヲ作し存ス。
此物ヲ水ヨリ得ル、數法アリ（第十二試及ヒ第十四試ヲ見ヨ）此
物ヲ沸^熱大氣中ニ燃セハ清^純水ヲ得ヘシ。水素ハ他ノ數
々ノ元素ト抱合スル者ニシテ炭素ト抱合スニハ沼氣（即火^益氣）

シ作スナリ 沼氣ハ石炭瓦斯 中_一瓦斯又硝酸、硫酸、塩酸等ノ如キ諸酸中
ニ在リ。水素ハ萬物中最輕ノモノニシテ大氣ヨリ輕キ^一
殆ント十四倍半トス故ニ輕氣球シ充^ル用エ

空素第四十七章

空素ハ亦無色無味且ツ見ルヘカラサル氣体ニシテ大氣中ニ旅離シ
現ス。此物ヲ大氣中ヨリ得ント欲セハ燐ノ小片ヲ（第六試）ノ
如キ裝置中ニ燃ヤスラ便トス。空素ハ硝酸、硝石及々暗謹屋
無寺ノ如キ數々ノ抱合物中ニ存レ且ツ動物ノ皮肉中ニ
現存スル者トス而レニ此物ハ諸體ト容易ニ結合シ難クレ
テ甚^ニ傷^{主能}キナキモノトス即チ酸素ハ反レテ諸物ノ燃燒
及々動物ノ生活ヲ保呵セルシナス自己ニ燃燒セサルモ

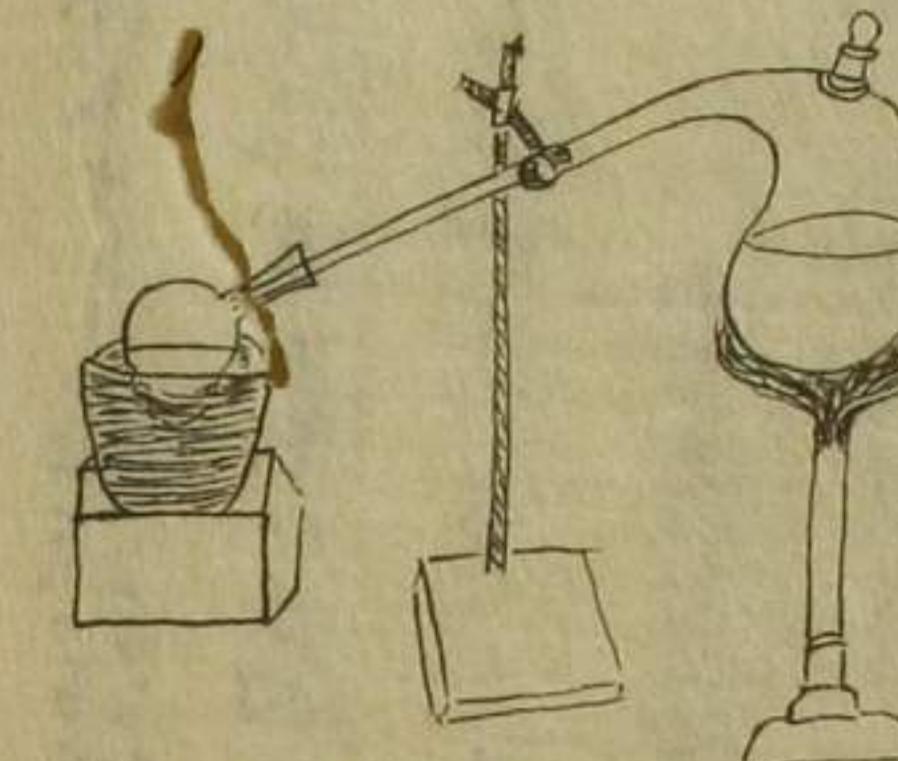
ナリ 然し毒性シ備フルモノ、アテス但レ動物ヲ窒素中
置クキト死スルハ特ニ酸素欠乏ナルト由リ呼吸室息ス
ルヲ以テナリ

フ以テ

空室素ハ水素ト抱合シ暗謹屋ニラ形為レ水素及ビ酸素ト
抱合シ硝酸ノ形為ス

(第38試) 硝酸シ製スルニハ粉末硝石・半弓ナレトルト中
入レ之シ硫酸ノ半弓ナレ注入レ然ル后チ
其レトルトヲ燈火ニテ熱レ皿去スル廻所ノ
液シ預メ水中、冷シ置キタル壇中、滴落
セシムラ便法トス 硝酸ハ酸味アル腐蝕性
モノナリ就中強硝酸ハ其性甚^ハ皮膚ニ

第38



触レハ黃色ノ斑点ヲ残ス又此物ハ青色リトマス液ウ赤色、変
ユル性アリ ^但苛性剝篤亞斯(赤色リトマスカラ青色、変スルモ)
ノ如キ無角加里ト混スレハ其性ヲ失ヒ赤色、変スルニ至ラ
ス又少量ノ苛性剝篤亞斯ノ溶液ヲ取り之シリトマスラカフレハ
速ニ青色、変ス然ル后ナ徐々ニ硝酸シ注加スレハ其青色リトマス
直ナニ赤色、変ス之ノ酸ノ勧キ無角加里ノ勧キラ中和セム
ルカ故ナリ此溶液ヲ小ナル陶器、入レ拂觸益発セシムハ白色區
ラ残ス此塗ハ硝酸及ビ剝篤亞斯ノ化学抱合、由テ成ルノ硝石
レテ通常硝酸ノ製造ニ用ユルモノナリ而レテ其塗ナシテ取
リ強熱 ^後 ^{ク熱セシメテ後} 水中、溶解シ其液中ニ赤色リトマス投ス
ルも青ニ变セス又青色リトマスラ漫スモ赤ニ变セス之シケ以テ

拂騰セシメ得ル所ノ白色塩ハ全リ中和塩ナルト知ルヒ足ル

酸^{アシ}亜^{アミ}加里及ヒ塩美

上試、原^ハ次ノ三條ク明解スヘレ

二酸味及ヒ腐蝕性^{アシテイシキ}青^{シオ}色^{コロ}ヘ青^{シオ}色^{コロ}液^{リドマス}青^{シオ}色^{コロ}變

スル者^{アシタ}酸^{アシ}ト名ワク

三赤^{アカ}色^{コロ}液^{リドマス}青^{シオ}色^{コロ}變^{ハシナ}且^{アシタ}酸^{アシ}ト中和セシムヘキ

性^{アシテイシキ}有^{アリ}スル者^{アシタ}酸^{アシ}ト名ワク

三酸^{アシ}亜^{アミ}加里ト抱合^{ハグマツ}シ中和体^{アシシテイ}成^ルタル者^{アシタ}鹽^{ソルト}

美^{アシタ}ト名ワク

諸物化學抱合^{ハグマツ}シ作スハ其性互^{ハシナ}著^{シテ}ノ相異^{ハシナ}リタル者^{アシタ}甚シトス

例^ハ硝酸及ヒ剝^{ハシナ}石^{アシナ}斯^{ハシナ}如^{シテ}此ニ物ハ人^{アシタ}知^ル所^{アシタ}ノ如^{シテ}硝石^{アシナ}形^{アシタ}為^{シテ}成^ル勿^{ハシナ}ナリト^{ハシナ}其^{ハシナ}性^{アシテイシキ}互^{ハシナ}相異^{ハシナ}ル^{ハシナ}之^{アシタ}之^{アシタ}過^{ハシナ}ノモ^{ハシナ}無^キノシナラス^{ハシナ}且^{アシタ}其^{ハシナ}抱合^{ハグマツ}シ成^ル所^{アシタ}硝石^{アシナ}トモ^{ハシナ}生^ル相異^{ハシナ}モノナト^{ハシナ}

炭素第十八章

炭素ハ固体元素シテ游離^{ハシナ}シテ木炭^{アーチ^{シテ}シキ炭}、石炭^{アーチ^{シテ}シキ炭}等^{アシタ}、和シ又ニ種^{アシタ}ノ全^{アシタ}異^{ハシナ}リタル体^{アシタ}シ作^{ハシナ}レ族離^{ハシナ}シ観^ス即チ金剛石^{無色ニシテ号^{アシタ}無^キ寶石}及ヒ墨^{アシタ}鉛^{アシタ}即チ石墨^{製^{シテ}シテ用^{シテ}筆^{アシタ}者^{アシタ}}之^{アシタ}ナリ此三物各^{アシタ}異^{ハシナ}ル如^{シテ}ト金^{アシタ}化學上同元素タル^{アシタ}證^{スル}シハ之^{アシタ}順次^{アシタ}、酸素瓦斯中^{アシタ}燃燒^{ハシナ}セシム^{アシタ}要^ス也^{アシタ}如^{シテ}スレハ皆^{アシタ}ナガ^{ハシナ}燃燒^{ハシナ}シテ^{アシタ}炭酸瓦斯^{アシタ}獨^{アシタ}矣^{アシタ}スル^{アシタ}見^ル故^{アシタ}、三物共^{アシタ}炭素^{アシタ}含^ムテ知^ル足^ル又三物共^{アシタ}

他物ヲ含有セルヤ否ヲ知ラント欲セハ各種ノ十二氏ヲ取り之
ヲ逐次、大氣中、燃燒セシム、レ然テハ各種毎、炭酸ノ名々
四ナニルヲ揚究ス、是由リ之モウ見トハ三物、各々異事ル如キシ
凡全ノ同元素即チ炭素ノシタル分明ナリ

炭素ハ、凡百ノ植物及ヒ動物ノ繁要部分ヲ作ス者アリ、故木炭
ノ一片ハ、本有常樹木ノ形狀及ヒ無組織輪條ヲ備フ、又肉ノ一片ヲ焼ケ
ハ黒色ノ炭素ヲ見ルベシ、然レ樹木或ハ肉ツ十分、焼ケハ、炭素ハ、凡
テ炭酸瓦斯ト成リ消失ス、而レテ白色灰塵ノケ量ヲ残ス
ノミ、

(第三十九試) 植物ノ炭素ヲ含シルヲ證スルニハ、先ツ白糖ノ小塊
ヲ硝子盃中、投シ、之レ、ナ量ノ沸湯ヲ加ヘ濃液ヲ作ス、至リ、

后更ニ強硫酸ヲ注入ス、ニシニ此ノ如クレハ其濃液呈褐色
ト成リ、泡ノ發シ、遂、全ノ黒色木炭ニ変ス、此ノ發現ノ生ル
ハ、炭素ノ糖中、抱合レ存スニ由ルナリ。

前、論ニ如ク、炭素ハ、動物及ヒ植物ノ繁要物ナル、故若シ
此ノ一元素ナキナハ、天地間万種ノ動物及植物皆ナ瞬時
モ存活スルヲ得サルナリ、

炭素ハ、動、植兩物中、存スルノシナラス、大氣及ヒ白墨、石灰、及ヒ
大理石ノ如キ教檜ノ^演體石中、炭酸ト成リ現ス、而シテ(第三十九試)
記スル如ク、大氣中ノ炭酸ハ、万種植物ノ食料ヲ作スモノ
ナリ、

○非金屬元素ノト

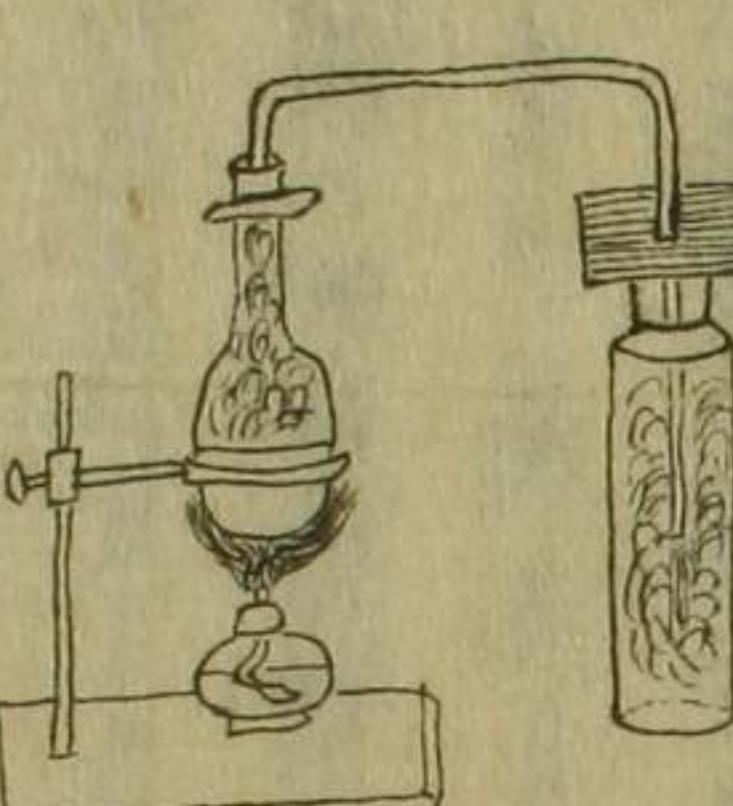
塩素ノ第四十九章

塩素ハ其性質已、記載シタル諸元素ヨリ甚タ異リタル元素シテ、強烈ナル臭氣ヲ保テル黃色氣体アリ、而レテ、若レ誤テ之シテ呼吸スハ極毒ヲ為ス、此物ハ宇宙同、旅商ノ現セス、凡レ凡、其緊要抱合物即ナ食鹽ヨリ之シテ領得、ベレ此食鹽ハ、食物及ヒ海水、鹹味ヲキフル者ニシテ、塩素^{合子}、模地菴、兩物ノ抱合ヨリ成ルモノナリ、故ニ之シテ塩化模地菴ト名ワク。

(第四十試) 食鹽^{ヨリ}塩素ヲ得ルニハ、其少量ヲ粉末黑色酸化鷺鶴ノガ^サ許ト混レ、壇中に入シ、之シテ稀硫酸ヲ注加スベレ、其裝置(第十三圖)ニ示セん如キ、尾折管ヲ用ヒ且ツ其壇底ヲ微

熱スベシ、此ノ如クスル^レハ塩素分离シ、強烈ナル臭氣ヲ有セル童キ黄色氣体ト成^カリ、陽發ス、而シテ之シテ之^{シテ}固ノ如キ乾キタル壇中ノ集ム^シ、此試験ヲ為ス、當リ、其瓦斯ヲ呼吸セサル、注意スレ、若し呼吸スレ、咳嗽及ヒ咽喉ノ痙攣ヲ起スアルカ故ナリ。

二十三



塩素瓦斯ハ直ニ諸金属ト抱合レ、塩化物ヲ

作ス、例ヘ、粉末ナル游离アンチモニイレノナ量ヲ取リ、之シテ塩素瓦斯ノ壇中、投スレハ、火花ヲ生スル^{シテ}、白烟ヲ形為ス、是ヲ以テ、諸物、酸素瓦斯中、燃焼スル^{シテ}ナラス。塩素瓦斯中、燃焼スルヲ知ルベ久、又化学抱合ノ起ニ當テハ、常^ニ其^ノ生スルヲ知ルベレ、且

塩素、塗キ、晒入性質ヲ持つ者トス、故ニ廣ノ麻布及綿布
諸色ヲ消去^{褪白}セレルニ用^{今簡}ニレシ、試^{スルニハ}色^{染色}綿布ノ一
片^ヲ水^ニ^馬湿シ、之^ヲ其黃色瓦斯ノ壇中^ト投^シ置^シ簡
鼎ト不燃^ル后^ナ三四分時間^ト其布^ト震搖^スハ
其色^全消失^{スル}見ルベレ。

坊間ノ晒粉^{次塗塩素}ハ、塩素ヲ含有ス、之^ヲ證スルニハ、其白粉ノ
少量ヲ壇底^致入^シ之^セ少許ノ稀臘硫酸^ヲ注加ス^ヘ生
キハ、塩素ハ直^ニ黃色氣体^{諸色ヲ消失}ト成^リ白粉上^ニ浮^フ見^ス

(第四十一試)此^ヲ晒粉ヲ水^ト混^シ之^セ色^{ウキ}綿布^ノ一片シ
浸^スモ其色更^ニ消^スセ^ス然^{ルニ}其布^ニ少量ノ硫酸^ヲ含
ミタル(即^テ硫酸ニテ酸味^ヲ保^有レタ^ル)水中^ニ浸^セハ、其色漸々
消失^ス入^シ之^セ搾^取^{及復}ト^ニ而三四^スレハ遂^ニ全^ニ白色ト成^リ
至^ル之^セ即^テ晒工^{サシヤ}ノ常^ニ用^ル所^ノ法^ナ、蓋^シ晒粉液
中^ニ塩素、硫酸^ノ为^メ遊离^シ布^ニ脱^褪色^{セレル}ナリ。

硫黃茅五十章

硫黃ハ黃色ノ固体元素ニレテ、美ナル黃色粉^{錦花}或^シ圓柱状^ヲ作^シ産^{スルモノ}ト^ニ、此物ノヤ塊^ヲ七上^ニ置^キ、火火^ニテ熱^スレ
ハ、先^ニ熔化^シ、次^テ沸腾^シ、^{最後}林文燒^シ遂^ニ全^ク帶白青
色ノ火^ヲ發^シ、^{馬失人}而^{レテ}同時^ニ固有不快ノ臭^ヲ生^ス、此^ノ如
ク燃燒^{スル}高^リ、其硫黃ハ氣中^ニ酸素ト結合^シ酸化硫
黃^ヲ成^レ、無色ノ瓦斯^ト成^ル、

硫黃ハ火シ木質、傳ヘ鳴キラ以テ、明星火奴其火光明星ノ如キノ
ヲ以テ此名アリ、點頭、裝着スル、用エ、又火藥硫黃木炭及ヒ
硝石ノ混合物ヲ製スル、用エ、
硫黃存焉物ハ火山近傍ノ地、多ク存入在リ、故、殊、西治里島シリイニ産入ル、
諸金属ト抱合シ硫化物ト成リ、現スル、亦ヨリ、此硫化物、一般
諸金ノ元礦シテ、之ヨリ其抱合金屬ヲ分析し得ル所ノモ、
ナリ、故、カリナレト、神スル、鉛礦ハ即チ、硫化鉛ナリ、又硫黃
、硫酸素及ヒ水素ト抱合シ、化学上、繫要ナル抱合物、即チ、硫酸ナリ、
アリ、此硫酸、重キ油状、液、シテ、通常、綠礬油ト名ワリ、此物ハ綿
布、晒白、打印、染色、又亜角架、石碌及ヒ他、諸酸ノ製造等諸
術、用ニシテ、最ヨメ量、製造スルモノナリ、又硫酸ハ、金属ト結
合シ、硫酸塩美シ為ス、成、硫酸曹連硫酸ナラウ
ベシ塩、硫酸銨即緑色及ヒ硫酸銅

即青色
錦磐 署之ナリ

不
燃
素
茅
九
十
一
章

燐素ノハ辟竈レ現セス、但酸素ト結合シ、動物ノ骨中、在リ或
ハカルシニト抱合シ、即燐酸カルシニト成リ存ス。今一片ノ骨ヲ
取り之シ焼ケハ、白色ノ綿状塊即チ骨灰シ残入、乃チ其塊ヨリ
燐シ製スベレ。

燐ハ紫素ノヤク、ニ種ノ異リタル形狀ヲ有し存ス、其一、黃色即チ
通常燐、二、赤色燐ナリ。此ニ種ハ、其性著シク相異ナリ。
ル者身

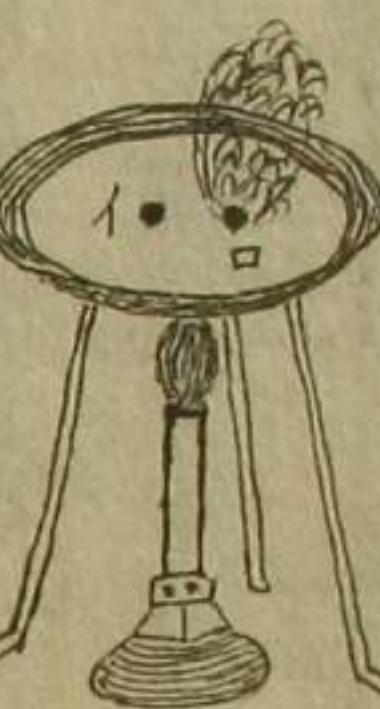
(第四十二試) 小ナル鉛鉢ヲ取リ、之シ三足臺ノ上に置キ、注行フ。
意テ黄色燐ノ塊ヲ切リ、其大サ豌豆ノ四分一許大モトノモトニ在リ、
為ス。レ但之レ、為スハ水中、於テスルヲ要ス。蓋し、黄色燐。

燃焼スヘキモノナル故、若シ氣中、テ為セハ自燃、燒焚人殊、

指上ニテ燃焼スレハ甚シク、

之ノカガタ、魚鱉スルシテ足テナリ、先后ナ其

行五、
ル處アリ



第三十
第四
第小塊ヲ羅紗或ハ吸湿紙ニテ速、乾カ
燐ヒラメ、小塊ヲ羅紗或ハ吸湿紙ニテ速、乾カ
燐ヒラメ、

置クレ又次ニ同大ノ赤色燐ヒラメヲ取リ同
シク鉄鉢上ニ置クレ、但シ之レラ燐ヒラメハ黃色燐ヒラメノ如ク水中ニテ
為スラ要セス而後

置クレ又次ニ同大ノ赤色燐ヒラメヲ取リ同
シク鉄鉢上ニ置クレ、但シ之レラ燐ヒラメハ黃色燐ヒラメノ如ク水中ニテ
為スラ要セス而後、然ルノ后ナ鉄鉢下ニ火炎ヲ致セハ、二三瞬時、
レテ其黃色燐ヒラメハ焚燒し、輝ヒラメタル及ヒ濃厚な白色烟ヲ
發スル、至シ元赤色燐ヒラメハ、然ラ云々、半ハ高之レラ執スルヲ久シテ
ハ、遂ニ焚燒シテ黃色燐ヒラメノ如ク太烟ヲ發スル、至ル是ヲ
以テ兩種異性也レシ相異ルラ知ルベシ、但し黃色燐ヒラメハ燃工
著

男キ故、水中ニアラサレハ貯置スル能ハスト矣凡、赤色燐ヒラメハ之レ
ニ反シ燃下難キヲ以テ、氣中ニ貯置スルヲ得キナリ。

(第十三試) 黃色燐ヒラメハ、摩擦ニテ、焚燒ス、今ニ試ミニ其燐ヒラメノ
最小塊ヲ取り、吸湿紙一斤ニテ包ミ、庫ニ之レラ床上ニ置
キ、長皆ニテ摩擦スルカ、或ハ之レラ木片上ニ置キ、柵子ニテ摩擦
スレ此如クスレハ其燐ヒラメ立地ヒラメ、焚燒發火ス、是即ナ明星火奴
燐ヒラメ此燐ヒラメノトト故ニ之レラ疎縫面ニテ摩擦敷
摩擦スレハ其燐ヒラメ直キ、焚燒免ト至ル
近立安全火奴ヲ製作セリ、此火奴ハ其箱縁ニテ摩擦スルアラ
サレハ焚燒ヤルモノトス、今試ミ、其火奴ノ一斤ヲ取り、之レ通常

火奴ノ箱縁、摩ニスルモ燃焼セス、ホシニシテ安全火奴ノ沙紙
褐色又
色アリニテ摩擦スレハ直ナ、焚燃ス、但安全火奴火通常火奴ト其製
シ含有セサルヲ以テ、含メル燃燒セナリヤモ、外、他ノ疎縫面ニ
摩ニスルモ焚燒セリナリ、差但し安全火奴ノ箱縁ハ粉末シ
燃燒火難キ赤色辟即燃ヘ難キ被覆シ置クモトス、是シ以テ今
其火奴之セラ其箱縁、摩ニスレハ燃燒其柄頭ニ附着
シ其火奴ヲシテ焚燃セシムルト至ル

珪素第亜十二章

珪素ハ^火燐ノ如ク宇宙間、^間諸禹シ現セス、然レモ酸素ト抱合シニテ
量、存スルモノナリ酸化珪素即^火珪酸ハ通常水晶ト名ワクルモノ
シテ、殆^火シト凡百ノ礦石中、在リ、而シテ沙及^火火石ハ稍々紙ナル
物ヲ烈火竈中、熱スル、在リ、一ハ沙、酸化鋁及^火利篤亞斯
ノ混物ヲ熱スル、在リ、

第一法ニテ製シタルモノハ通常ウシトウカラスト名ワクルモノニシテ、其第
二法ハ即ナ^火プリントカラスナリ、珪素ハ黑色結晶状ニシテ、珪酸ヨリ
酸素ヲ分離セシム^火得ヘレ、
地中、礦石教權アリ、而シテ、其礦ハ珪素、或ハ、他ノ金属ヲ含
ムアリ、又酸化珪素及^火酸化金属ノ混物ヲ含ムアリ、故、地球ハ燃
焼シタル^{物質}或ハ酸化シタル物質ヨリ成ルト分明ナリ、

○金属界圖六

鉄第五十三章

此物

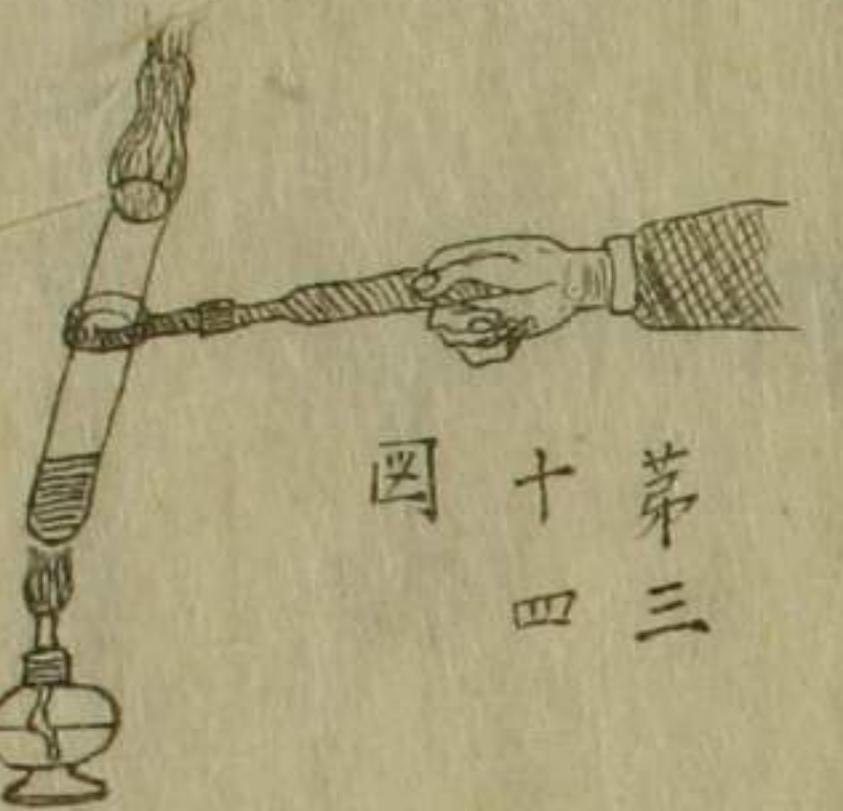
鉄ハ諸金屬中最も緊要物トリ故ニ若シキレナケレハ鐵道、
蒸氣器械、瓦斯管、水管及く刀劍等ヲ製スル能ハス
アセナ然レハ古此ノ要用金屬ヲ知ルモノナシ是ヲ以テ器械ヲ製スル
當テア青銅或ハ銅ヲ用ヒタリ、尚太古ニ在テ、石斧及ヒ石刃ヲ用
ヒタリ、鉄鎌ノ最要物ハ赤色酸化鉄シテ、通草之ヲヘメタイト
鉄鎌ト云フ、此物ヲ木炭ト共ヒ熱ヒハ其酸素ヲ除去スヘシ矣
而ヒ後后ナ之ヲ打延シ棒鉄ト為シ、鍬、鋤或ハ馬沓ヲ製シ之ヲ推
延シ、平板ト為シ、鍋、釜或ハ舟ヲ倒衣ス、此ノ如クレ倒衣レル鉄ヲ
鍛候ト云フ、而シテ釘、鋸或ハ車輪等ヲ製スル、亦之ヲ用エ、又一

種累要ナル鉄アリ、之ヲ鑄鉄ト云フ、蓋し此名ヲ得ル人、製衣間之コラ熔化シ模型イカタ、注入スルヲ以テナリ、鑄鉄ハ瓦斯管、水管、燈柱、車輪、轆、器械、臺及他諸物ノ製造、用ニ此物ハ鉄鑛、石炭及石灰三物ヲ反射窓中、熱スレハ得ヘレ。

鑄鉄ハ玻璃ノ如ク脆ク、易碎ケ易キヲ以テ、熱間打延シ棒、或ハ板ト為スカラス、此物ハ純鉄、アラスレテ炭素ヲ含有ススル但シ制衣間之シク石炭ヨリ得ルナリ、又ドリンジノ法ニ由ハ、鉄鉄ヨリ鍛鉄ヲ製スベレ、又一種銅鉄ト名ワカルモノアリ、此物ハ堅クシテ銳尖ヲ為シ易ク、且破砕シ難キヲ以テ、剃刀、剪刀及已他百凡ノ刃刀ヲ製衣スルニ用ニ、銅ハ亦些少ノ炭素ヲ含ム而レテ、鍛鉄、鑄鉄両物ヨリ之シク製作スベレ。

鉄ヲ氣中或ハ酸素中、焼ケハ、(第三十一試)酸化鉄ヲ得ヘレ、此物ハ光沢アル鉄ノ一片ヲ温氣中、放置スルモ亦成ルナリ、然レ此ノ如クスルト久シケレハ、遂に全ク光沢ヲ失ヒ赤色ト成ル、至ル之ヲ鑄鉄ト云フ。

(第四試)此サノ鉄屑ヲ、試管に入レ、之レヒ稀硫酸ノ少量ヲ注ケハ、瓦斯徐々ニ揚火ス若之シ酒精燈ニテ温ムレハ其瓦斯速カニ揚火スルト至ル、而レテ四ノ如ク管口ニテ燃焼ス、此瓦斯ハ即テ水素瓦斯ナリ、蓋レ、鉄硫酸中、溶解シ硫酸鉄鉄酸ト成ルヲ以テ、硫酸中ノ水素分离シ揚火スルナリ、然ル后其試管、水シ充タシ其液シ濃過



四
第三
十四

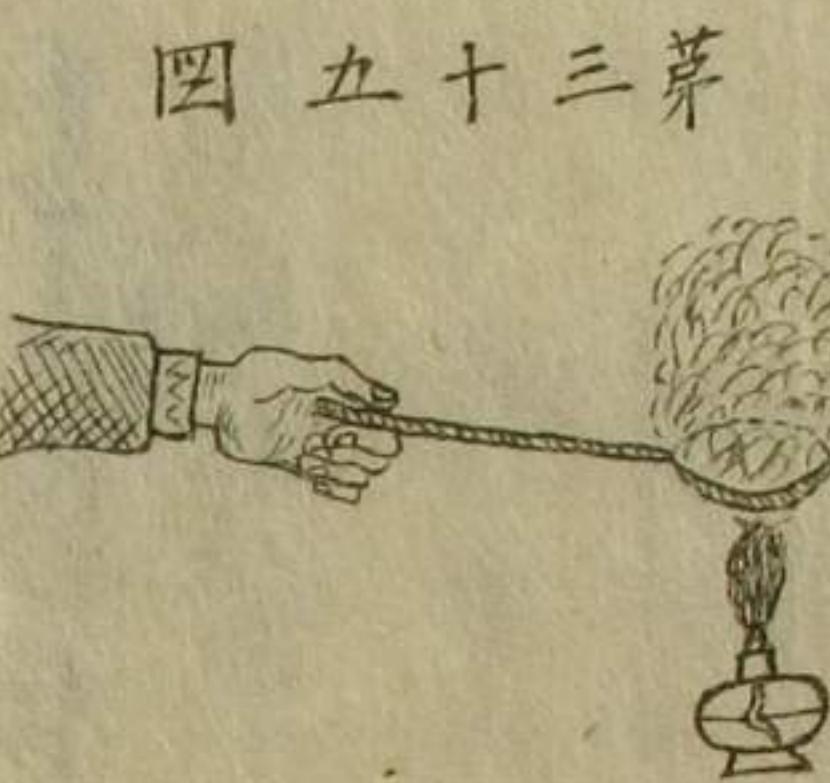
速カニ揚火スルト至ル、而レテ四ノ如ク管口ニ

テ燃焼ス、此瓦斯ハ即テ水素瓦斯ナリ、

蓋レ、鉄硫酸中、溶解シ硫酸鉄鉄酸ト成

ルヲ以テ、硫酸中ノ水素分离シ揚火スルナリ、

スレハ殆ドト無色ノ液ト成ル此液ヲ蒸発シ冷セハ硫酸鉄ノ結
晶ヲ得ヘシ(第三十九圖ヲ見ヨ)



四十五三茅

亞爾密紐母茅立十四章

亞爾密紐母ハ粘土ヨリ得ル所ノ金属ナリ故ニ諸種ノ岩石中ニ多
量、混存ス此ノ光輝アル銀白色金属^{粘土}ヨリ得ナルハ人々比白ナ松疑
テ是特リ化学家ハ之ヲ分析レ得ルナリ之ヲ粘土ヨリ得シ

ト欲スルニ富リ其酸素ヲ分析レ除去スルノ易カラサルヲ患トス、
蓋シ此金属ヲ量、得ラルニ於テハ廣ク諸用、供スルヲ得シハ
ナリ、粘土ハ其值殊、廉ニシテ且フ常ニ現存セルモノト金元^テ此
金属ヲ製取スルハ其費甚タキヲ以テ、多量ノ製造シ果サ、
ルナリ此ノ光輝アル金属ヲ氣中ニ熱シハ燃ヘテ酸化物ト成ル、
白色結晶状明礬ハ亦此金属ヲ含ムモノトス、

加爾叟母茅立十五章

加爾叟母ハ其化合物^也亦極ノテニシト金元、其純精物ヲ得ルヲ
亦甚メ難シトス、其化合物ハ即ナ生石灰、白墨、大理石、石灰及ビ
珊瑚^{炭酸}石膏^{硫酸}及ヒ骨土^{磷酸}等ノ如シ、是ヲ以テ此金属ノ地中ニ
産スルヲテキシ知ルベレ、

(第4十九試) 白墨及ヒ 塩化水素酸 (第29試) ヨリ 崗酸^ノ製衣スル
當^其壇中、残レル液ハ 塩化カルシユムノ溶液ナリ、此液ヲ^テ廻^シ蒸
発乾燥セレムレハ、白色粉末ノ塩化カルシユムノ残ス、此物ハ、温氣^ヲ吸
收シ易キク以テ、水素ヲ吸乾燥セシメ又水ヲ吸收セシムル^ニ用^ス。今^(第29試)
之ヲ^テ試ムルニハ、先ウ其^{乾キタル}粉末物ノ少許ヲ取り、之ヲ^テ二三時間氣中
ニ放置ス^テ、其^{粉未物}漸々液状ト成ル、至ル、之レ即^ナ
氣中、現存^セル温氣ヲ吸收スルノ徵ナリ。

乾キタル塩化カルシユムノ粉未物此^ヲ取^リ、試管^ニ入^レ、水^ヲ溶カシ、
之レ^ヒ 崗酸^ノ透明液^ヲ加フ^レハ、其液直^ニ乳汁状^ヲ汚濁
シ生ス、之レ^ヒ 塩化カルシユムノ如ク水溶^セサリ^ノ 崗酸カルシユム^ノ白墨^ノ成^リテ
沈澱スル^ニ帰^スナリ、其抱合変態ハ左ノ如シ。

(塩化カルシユム^ノ ^{比物水}) 及ヒ (崗酸カルシユム^ノ ^同)

此物、溶液ヲ混スレハ、次ノ抱合物ヲ得ベレ。

(^ノ ^{比物水}) 及ヒ (塩化カルシユム^ノ ^{比物水}) 及ヒ (食鹽^ノ ^{比物水})
是ヲ以テ、同金屬ノ塩类中、或ハ水溶^シ (塩化カルシユムノ如シ) 或ハ水
溶^セサル者 (崗酸カルシユムノ如シ) アルヲ知ルヘレ、又此兩物ノ成ルハ、
故全ク故ノ兩物配合ノ变换スルヨリ成ルモノナル故、曾テ別^ヒ他^ノ成
分交代シ采ル^ヒ非サル^ヲ、註意スヘシ。

麻屋涅良母第十六章

麻屋涅良母ハ軟キ銀様白色ノ金屬ニシテ、紐及ヒ糸金ト為スヲ
得ヘレ、

(第四十六試) 麻屋涅史母ノ糸金六或ハ八インチノモノシテ取り、其一端ヲ炎上、致セハ、焚焼フテ眩迷スヘキ白色光ヲ發ス而シテ白色粉ヲ残ス、キトキ此粉ハ、酸化麻屋涅史母、即ナ麻屋涅矢亞ナリ、又麻屋涅史母ハ、燃燒スシハ黒色及ヒ白色ノ烟ヲ發ス、其黑色烟ハ、麻屋涅史母ノ全ク燃ヘアルモノシテ、其白色烟ハ、全ク燃ヘテ、麻屋涅矢亞ト成リタル者ナリ。

(第四十七試) 麻屋涅矢亞ノ約宜量ヲ、試管に入レ、之ニ硫酸ニ三滴ヲ加ヘ、温クシハ、麻屋涅矢亞ノ溶解シテ透明液ト成ル、后ナ其液ヲ磁皿、移注レ、其水分ヲ沸騰蒸發セシムテ此ノ如クシ置キ、冷テ後ナ其皿中、長針状結晶ヲ形為ス、此結晶ハ硫酸麻屋涅史母即ケハシテ、麻屋涅矢亞及ヒ硫酸ノ抱合ヨリ成ル者ナリ。

麻屋涅史母ノ抱合物中或ナ者ハ、諸金属及ヒ岩石中、在リ此金属ハ、族离シ現セス、而シテ麻屋涅矢亞ヨリ之ヒシ製成スルニハ、其質少ナカラストス、此物ハ、乾氣中、焚焼スレハ極メテ光輝アル光焰アリ、スルヲ以テ、諸般ノ火枝及ヒ合図ヲ為ス、用エ、故ニ後立廉價ル者アリテ之レヲ製成スルヲ得ハ、尚他用ニ供スル、至ル、ベレ。

○金属第廿二

曾胄母第五十七章

曾胄母ハ水ヨリ水素ヲ得ント、欲スルニ當リ、用エ、所ノ金属ナリ、(第十三試)此金属ハ、氣中、貯置スル能ハサルノミナラス、尚之セシ水ニ近シ近付接スクル能ハサルナリ、蓋シ氣、當レハ直ニ、酸化シ、白粉ト成リ、又

水に近付ケハ其酸素ト抱合レ、其水素ヲ游離セしルシ以テナリ。
故ニ之レ貯貯フルニハ酸素ヲ含マサル山油中、置クシ要ス、之セシ試
スルニハ(第十三試)ノ如ク此金属ノ小塊ヲ水中、投スレバ其
金属、水ヨリ軽キヲ以テ、其水面に浮游シ、而シテ水素ノ発光ス
ルヲ見ル、此時、當リ、其水中に赤色ノトネ液シ加フルモ直チニ変
シテ青色液ト成ル、至ル、之レ即チ曾胃母、水ノ酸素ト抱合シテ
亜角加里塩即ナ酸化曾胃母ト成ル、帰スルナリ。

(第四十八試)曾胃母ハ麻屋涅良母及ヒ亞角密紐母ニ極金属ノ
製造、用ユルヲ以テ、化学家最要ノ金属タリ、此物ハ宇宙間
ニ游离シ現セス、併レ曹達(酸化曾胃母)ト成リ存ス、故、此物ヨリ
リ酸素ヲ除去スレハ其金属ヲ得ル、又曾胃母ノ七塊ヲヒ上

ニ置キ、燈大ニテ熱スレハ先ツ熔化シ、后ツ焚焼シテ光輝アル
黄色火ヲ發シ、而シテ酸化物(曹達)ノ白色烟ヲ生ス
曾胃母ノ塩类ハ數多アリ、而シテ其多分ハ甚タ堅要^物タリ、故ニ今
茲ニ其最要物二ヲ掲示スレ、

(普通名)

(化学名)

(成分)

海塩、山塩、或ハ食塩

塩化曾胃母

曾胃母及ヒ塩素

コグナウヘル、塩^{即ナ}芭硝

硫酸曾胃母

曾胃母及ヒ硫酸

洗淨曹達

炭酸曾胃母

曾胃母及ヒ炭酸

智利國、硝石

硝酸曾胃母

曾胃母及ヒ硝酸

此内山塩ハ最ニ多量、産スルモノ、シテ、チエサイル地及ヒ他ノ礦山ヨリ
得ヘシ、而シテ其用、供スルト亦夥シク、年々、數千百頓、量ニ至ル、此

物ハ海水ヲ塩化スルモ亦得ヘシ、而ヒテ他ノ曾曾母ノ塩矣、皆
ナ之セヨリ製衣スルシ得ルナリ、例ヘハグラウベル塩シ得ント欲
セハ之シ、硫酸ヲ注加ス、アラシサリ、其抱合變態ハ左ノ如レ
レテ硫酸曾曾母殘ルナリ、其抱合變態ハ左ノ如レ

塩化曾曾母(食鹽) 及ヒ 硫酸

此二物ヲ混スレハ次ノ_{化合物}ヲ得ヘレ

硫酸曾曾母(グラウベル塩)

及ヒ 塩化水素酸瓦斯

此塩化水素酸瓦斯ノ強キ酸味アルヲ證スルニハ、湿ヒタル青色、試験
紙ノ一片ヲ其瓦斯、触レシムベレ、其試験紙直ナ赤色、
度スル_{アラシ}知ルベレ

剥篤亞斐母茅五十八章

剥篤亞斐母ハ、剥篤亞斯及ヒ真塩_{剥篤亞斯}中、含ミタル金屬ナリ、此金
屬ノ小塊ヲ取リ、之レク豌豆ノ二分一許_大モノ、切り、水中、投スルハ
其酸素ト抱合シ、水素ヲ游离セシム、而ヒテ其水素ハ直ナ、焚燒
シテ紫色ノ炎ヲ發ス、但し紫色ハ茲、成ル_所ノ剥篤亞斯、为
メ起ルナリ、

剥篤亞斯ノ塩矣ハ、地球中_隨現存スルノシナラス、亦植物ノ灰中、
在リ、而ヒテ其剥篤亞斯_{ホットアス}ノ名ヲ得ルハ、_{塗中}木灰ノ鹹汁
シ焼キ製衣スルヲ以テナリ

剥篤亞斯ノ最要塩矣一二_ヲ得テ、_レ但し曹達及ヒ剥篤亞斯兩物
シ無角里ト名ワク

(普通名)

(花草名)

(成分)

剥篤亞斯 ポウトアス

炭酸剥篤亞斯母

剥篤亞斯母及炭酸

硝石

硝酸剥篤亞斯母

剥篤亞斯母及硝酸

塩素酸剥篤亞斯 塩素酸剥篤亞斯母 剥篤亞斯母及塩素

(第十九試) 石礫ハ動物ノ脂膚或植物ノ油ヲ亞角加里ト共ニ研意
シ制衣スルモノナリ而レテ曹達ラ昆スレハ硬キ石礫ヲ得ヘク剥篤
亞斯ラ昆スレハ軟キ石礫ヲ得ヘレ〇石礫ヲ製スルニハ先ツ薄キ磁
鉢、摩熟湯ヲ充タシ之ニ海狸油ノ半弓シ注加レ更ニ苛性曹達
の豆ヲ加フヘレ然後テ其液ヲ沸騰シメ其油ノ全ク消失スル
至シハ石礫ハ水中ニ溶解し存ス此液ヲ少時間沸騰セシメ之ニ
一掌ノ食塩ヲ投外此相溶スレ期食塩其水中ニ溶解シテ石
礫ヲ其水面ニ浮游セシム、后ナ之ニ冷所ク放置ケハ凝固シテ白色

固体ノ石礫ト成ル又石礫ヲ製スルハ通常ニ申或ニ脂膚シ
用ニルヲ常トス然レニ今現ニ海狸申シ用ヒタルハ石礫ヲ為
スフ尋章申ヨリ容易ナシテナリ

①金屬界

此篇ト抗ナハ諸術、主要ナリ貴金属リ教權ク論スベレ

銅第十九章

銅、赤色ノ金属シテ、釜、鍋及ビ罐子等ヲ製スルニ用ニ而レテ其系金
ハ軟ク且ワ破壊破難キヲ以テ甚ク要用タリ、銅、錫、高銅、時間天產アリ之レシ天產銅ト名ワク、先ニ通常之ヲ銅鑄ヨリ製入
而レテ其最要鑄ハ(第十九試)、テ製レタル銅及ビ硫黃、化合物即チ銅

之レナリ、此鎧ヨリ硫黄ヲ除去スレハ、純銅ヲ得ヘレ。
銅ハ他ノ金属ト混レ。合金ヲ作ケル、用ニ黄銅_{銅及ヒ}及ビ青銅_{銅及}、
ノ如シ又銅ヲ氣中、熱レハ、其面先ワ曇_{要甲ル}ノ次テ黑色_皮シ生スル
、至ル、尚之シテ熱スルヲ久シケレハ、遂、全ノ氣中ノ酸素ト抱合シ
テ、漸次剥落ス、之レ即テ(第二十試)、用ヒタル銅鱗、即ケ黒色酸化
銅ナリ。

(第十九試)銅ノ鑪屑一二ヲ試管入レ、之シ、硝酸_{硫酸}ノ二三滴ヲ注加
スレハ、濃厚ナル茶湯赤色ノ烟_ヲ発_ト而シテ、硝酸銅ノ青色液成
牛_ス牛_{此處ハ銅酸素及ヒ}。○此青色液ノ一滴ヲ水ヲ以テ充シタル試管入
レ、之シ、指模_{硝酸}牛_ク注加スレハ、其液青色、变ス。牛_{是ヲ以テ}容
易、銅ノ塩类ナルヲ_{試験}、試スベレ、青色石(第三十二試)即テ硫酸銅ハ

銅及ヒ硫酸ノ抱合物ナリ、此物ノ溶液一二滴ヲ水、混レ、更_ラ、指模
牛_ク加フレハ、硫酸銅ヲ加ヘタル同シテ、其液深青色、变ス、之
亦銅ノ塩类ナルシ、知ル、足ル。

亜鉛茅六十章

亜鉛ハ、要用ナル白色金属ナリ、此物ハ、鉄板ヲ被覆スル、用ニ
所謂鍍_鍍鉄ト称_スモノ之シテ_リ、此ノ如クシヘ、其鉄ヲ久_時ト_リ、
中、置_クテ、精_ラ生マシテ_リ、亜鉛礦ノ主要物ハ、硫化亜鉛_{亜鉛及ヒ}、
哈シテ、通常之シテ、ブレンド_ト名_{ツク}、又亜鉛ハ、他ノ金属ト混_和し
合_ス、用ニ例_ハ、黃銅ハ、亜鉛及ヒ銅ノ合金、シテ、元体、
狀_{アシ}ナリ。

(第十一試)亜鉛ヲ稀硫酸中、溶テハ、(第十五試)水素瓦斯_{瓦斯}發_ス、

而レテ硫酸亞鉛成ルナリ。此液ヲ瀘通シ先后之ニ蒸発シ放
冷セハ硫酸亞鉛ノ白色結晶ヲ得ヘシ。又亞鉛ノ鹽屑シ氣中、
強熱スレハ燃焼而レテ酸化亞鉛ノ白粉ヲ形為ス。之ト依
ハ亞鉛ハ麻屋涅曼母ト相似タルト明ナリ。
是
由テ之熟

錫第六十一章

錫ハ光輝アル白色金屬、シテ、銹、鍍スルト要用入、通常ノ錫板
アリキハ錫板ヲ熔化シタル錫中、投シ錫「鍍」シタルモノナリ。此メ
如クスレハ其錫ノ精^精ケ生スルヲ防ケベレ。錫ハ亦、殺程ノ要用
合金ヲ製スルト用エ。錫、アリタニア、メタル、アラムベルス、ソルテル等之レ
ナリ。錫ノ最要鑛ハコインカル純、立產スル酸化錫、シテ、通常
之レラ錫石ト称ス。此物ヨリ游离錫ヲ得ルハ、之レシ木炭ト共、

熱スベレ、然ラハ其酸素ハ木炭中ノ炭素ト抱合レ
シ純錫ハ残ルナリ。

茅三十



(茅五十二試) 粉末酸化錫ノ少量ヲ取
リ、之ニ同量ノ炭酸曹達^和ク混^和シ、其混
物ヲ木炭上、穿ケタル凹所、投入トレ
然ル后ナ因^和キ裝置ヲ用ヒ、吹管火ニ
テ熱スレハ其混物熔化スヘレ
混物熔化ス
モ尙暫時間熱
スル^此斯^此於テ、其混物ヲ周囲ノ炭ト共、
水^和成^和圓^和レ^和后ナ之^和、水シ入^和シ其

削リ取り、之ヲ乳鉢^和粉未^和成^和圓^和レ^和后ナ之^和、水シ入^和シ其
混物ヲ洗^淘ヘハ木炭粉ハ輕キ故、水ト共、流去シ、游离錫ノ小粒ハ、
重キ故、其器底、残ルナリ。此試法、^{於テ}ハ酸化錫ノ酸素ハ未

六四

炭ノ炭素ト結合シ 酸化炭素 瓦斯ト成リ 楊火し、游离錫ハ密化シ
残ルナリ、

鋁第六十二章

鋁ハ重キ藍色ノ金屬シテ熔カシ易ク、又切り易ク、又氣中
ニ酸化セアル者ナリ、是ヲ以テ瓦斯管、水管ノ製造 及ヒ家屋ノ外面
ヲ被覆スル、最要故 ナ、又此物ノ熔化 カレ易ク且つ鑄造レ易キ
ク以テ、銃銃ノ彈丸ヲ製スル、用ニ。鋁ノ主要鑛ハ硫化鋁
シテ、窯列斯名、産ス、其鑛ヲ通常ガリナト名ワク、而ヒ此
鑛ヨリ游離鋁ヲ得ル所、術ヲ「スマルケング」ト名ワケ、其學シメタ
ルロトシイト名ワク、

鋁ノ緊要化合物數種ヲ掲示ス、

(普通名)

(化學名)

(成分)

白鋁

炭酸鋁

鋁及ヒ炭酸

赤鋁

赤色酸化鋁

鋁及ヒ酸素

リサージ

黄色酸化鋁

同上

鋁糖

醋酸鋁

鋁及ヒ醋酸

ヨーマ黄色

ヨーム酸鋁

鋁及ヒヨーム酸

此内白鋁、赤鋁及ヒヨーム黄色ハ、會ノ具、用ニ。里鋁トハ、石墨
ノ通名開ナリ、矣、此物ハ米曾シテ、鋁勿シ含ムト、純精、
炭素ヨリ成ル、注意スベシ ト置キ事ス。

(第九十三試) 玻璃盃、水ヲ入レ、之ニ、醋酸鋁ノ溶液的宜ヲ加ヘ
更ラ、ヨーム酸利篤並叟母ノ溶液ヲ許ラ注ケハ、ヨーム酸鋁即チ

コロード黄色ノ美ナル黃色ノ沈殿ヲ生入、其抱合変態瓦ノ如レ

(コロード酸剤鷺亞斐母此物水宿ス) 及ヒ (硝酸銅同上)

此ニ物シ昆スレハ、次ノ抱合物ヲ得ベレ、

(コロード酸鉛水、落タル黄色粉) 及ヒ (硝酸銅此物水宿ス)

水銀第6十三章

水銀温ノ常熱ミテ、流動スヘキ金屬ナリ、而シテ 驗溫器儀 (熱度シ計ル器) 晴雨儀 (大氣ノ壓力ヲ計ル器) 及ヒ 鏡ノ製造、繫要者トス
水銀ノ氣中、置クモ 曇但ク生セ入、併レ 热スレハ 酸化シテ 赤色酸化水銀ト成ル、尚強極テノ熱スレハ 其酸素ヲ失ヒ、再ヒ 純精水銀、復ス (第三十試ノ如レ) 此物ハ、汗膚セシムヘク、是ワ水ノ如ク 蒸溜スルシ得ベレ、

水銀及ヒ其抱合物ハ、甚メ毒アリ、然レヒ、其抱合物中、或ハ少量、醫藥ノ用、供スルモノアリ、

銀第6十四章

銀ハ甚ダ高價ナル貴金属シテ、墨西哥及ヒ秘魯等、產ス、此物、酸化セサル性ク有スルヲ以テ、極メテ要用一品、矣、硫黃、近付ケハ黑色ト成ル、是黒色硫化物成ル、由ルナリ、○銀ハ往古以采貴價美麗ナル三件、殊銀貨幣、創造、用ニ、○英國ノ銀貨幣ハ些少ノ銅ヲ含ム、但し銀ヲ堅硬ト作ス方為メ、加フルナリ、

(第6十四試) シキスペンス銀貨ノ一斤ヲ切り、試管、入シ、之ニ硝酸ヲ注加スレハ、速カ、濃厚ナル赤色烟ク発ス、后ナ之シ

微熱スレハ銀ハ速ニ全ク溶解入(第二十二試) 論しシル如リ、銀ハ燒花曹曹母、現存ラ驗出スル、用ニルヲ得ベレ

斯テ於テ其溶液、食鹽液ヲ加フレハ、濃厚ナル白色ノ沈殿ヲ

生ス、之レ即チ不容解ノ塩化銀ナリ、其抱合、交態、左ノ如シ

(硝酸銀此物水) 及ビ (塩化曹曹母上)

此ニ物ヲ混スレハ、次ノ抱合物ヲ生ベレ

(塩化銀水、白色粉) 及ビ (硝酸晉晉母此物水)

一ロ
接ルニ貨中
ノ金精ノ副分此溶液シ盧遇シ、塩化銀ヲ除去スル、銅ハ全ク其液中、残ル故、其液藍綠色メリ、今之レ、光沢アル鉄ノヤ序ヲ投入スノ鉄レハ、旋即銅下速カ、沈殿シテ、其底上、附着スルナリ

黃金第六十五章

黃金ハ、銀ヨリ高價ナル金属シテ、美ナル黃色ヲ有ス、而シテ

常ニ旋即シ現ス、此物ハ近古ト平リヨタクカルホルテ紀及ヒ澳大利亞ヨリ出ツ、黄金ハ、金属中最重物ノ一、シテ甚、紳士系金ト為シ得トク又延打シテ甚、傳キ金箇ト為スフ得ヘシ、此金箇者
鑑定金此ノ純金ハ、極ムテ軟キヲ以テ、貨幣ト为し難シ、故、英國ニテアベーレン金貨等ノ名ラ作ケルニハ、之レ、此ニサノ銅ヲ混シ、以テ其金性ヲ堅硬タシケルナリ

(第十九試) 黃金ハ、諸酸、溶セス、解セ、金箔ノ一片ク取り、之ヲ二葉、切り、其一ヲ、試管、入シ、少量ノ硝酸ヲ注加レ、其一ヲ化ノ試管、入シ、少量ノ塩化水素酸ヲ注加スル、此ノ如クスルモ、兩管中ノ黃金溶解セタルナリ、然ニ此ノ兩管中ノ液シ混スル、其レハ、黃金ヘ速カ、溶解ス、是ラ以テ、各酸ノ一箇ノミテハ、之レシ溶解カス能ハス

ト金元丙酸ノ混物、即ナ硝塩化水素酸ハ、容易、之レヲ溶解ス
ルヲ知ル、足ル。黄金ハ氣中、置ケモ酸化セス、且ウ硫黃、近
キシム^{スル}モ硫化シテ、斑点シテ残サルナリ。銀ハ硫化シテ
黒色ト成ル故、往古以来貨幣ノ製造及シ諸種ノ裝飾、ニタ用ス。

化學摘要三篇終

